

ふじた看図アプローチ研究会 「ふじかん」 第29回研究会報告

日 時：2026年1月15日（木）17:45～19:45

場 所：藤田医科大学3号館6F643、633、Zoom

参加者：対面7名、Web7名 計14名



研究会は二部構成で実施した。第一部では、テキスト『見方・考え方を育てる授業デザイン—看図アプローチの理論と実践—』の第1章第2節看図アプローチと情報処理の内容をLTD話し合い学習法に沿って学び合った。第二部では、ファシリテーターである中村が撮影した写真を参加者が見て、看図アプローチを用いて協同学習をした。

1. アイスブレイク

①今年の抱負 ②予習の程度 ③意気込み を一人30秒ラウンドロビンで話した。合言葉は「いいですね～」であった。

2. LTD 話し合い学習法

対面とオンラインの参加者が混ざった2つのルームで実施した。LTDのStepに沿って、「言葉の理解」、「主張の理解」、「話題の理解」、「知識との関連づけ」、「自己との関連づけ」、「課題文の評価」を行った後、振り返りと全体発表を行い、各ルームで学習した内容を全体で共有した。

3. 看図アプローチ

参加者全員で看図アプローチを用いて写真を読み解いた。

1) 変換

ファシリテーターが示した写真1を見て、「犬」「ルンバ」「鉄道模型」「マット」など29の「もの」があがった。

2) 要素関連づけ

「マットの上に犬がいる」「ドアが閉まっている」「電車の模型が種別ごとに並べられている」などがあがった。

3) 外挿

写真2を見て、次の2つの発問に対して参加者が答えた。

【発問1】この犬によく見られる行動から、名前がつけられています。この後もそれをします。この犬の名前は何でしょうか。

【発問2】この犬は何歳でしょうか。



写真1

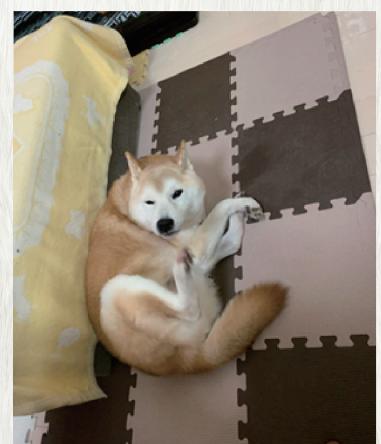


写真2

発問1に対して、「ペろちゃん」「ころちゃん」「すりーぴー」「ころんちゃん」「きっく」など14の名前があげられた。いずれも犬によく見られる行動・動作からの名前であった。

発問2に対しては、参加者があげた年齢のうち最も若かったのが2歳で、最も高齢であったのが18歳でその幅は大きかったが、高い年齢をあげた参加者が多くいた。

発問1の正解が「ペろ」で、正解発表時に犬が舐めている場面の写真を示した。発問2の正解が「14歳」であり、年齢が高くなるにしたがって犬の毛の色が白くなる特徴を写真が示していることを説明した。正解したメンバーは、犬の特徴をよく理解して回答された人であり、皆から拍手が送られた。

おわりに

初めての参加者が含まれていたが、参加者全員が新しいメンバーを大歓迎し、自己紹介を含めたアイスブレイクを通してすぐに打ち解け合った。相手に敬意を込めた「いいですね～」は、言う側も言われた側も嬉しくなり、よい循環が生まれていたように思う。

LTD 話し合い学習法のStepに沿ってラウンドロビンで進めたこともあり、参加しない者は皆無で、積極的な学び合いがされた。テキストの内容と経験談を繋げて発言できる参加者があり、大きな説得力があったように思う。今後、テキストで基礎知識を得て実践へ結ぶ活動ができれば、ふじた看図アプローチ研究会はさらに発展できるかもしれない。

今回の写真に登場する主役を犬とした。身近な動物であるため、よく見かけるが、看図アプローチを用いると、見ていたつもりでも見ていなかった「何か」が見えてくるかもしれないと思って取り上げた。犬の生体に関する知識を有する者は、回答の根拠が適切であり、他の参加者に影響を与えたことから、観察力と知識の両方の必要性を改めて確認できた。

ふじた看図アプローチ研究会は始終、和やかな雰囲気で進んだ。どんなことを言っても受け入れてもらえる安心感が根底にあったように思う。研究会の最後に、今の気持ちを自分の表情と動作で表現してもらい、集合写真に収めたが、笑顔で○やハートのポーズをとる参加者が多くいた。

文責：中村小百合



集合写真